

(仮称)吹田市立図書館サービス基本計画の素案に対する提出意見と市の考え方について

1 提出期間 令和4年(2022年)11月15日(火曜日)～  
令和4年(2022年)12月15日(木曜日)

2 提出意見数 8件(7通)

3 提出意見 以下のとおり

No.	提出意見	市の考え方
1	自習室のある図書館を増やしてほしい。なぜ自習してはいけないのか理由を明確にしてほしい。【1件】	図書館の座席は図書館資料の閲覧席としてご用意しております。その他、多様な学習活動を支援する立場から、自習用のスペースを確保できる館(中央図書館、北千里図書館)については、専用スペースを確保しております。
2	開館時間について。吹田市立図書館の多くが18時に閉館する。木・金曜日は20時まで開館しているが、出来るだけ多くの曜日において夜も開館してほしい。【1件】	令和4年11月に供用を開始した北千里図書館では毎日20時まで開館しています。また今後、地域の実状や市民の多様な生活時間に配慮し、利便性の向上を目指し、図書館サービスの提供時間や方法の見直しを検討してまいります。
3	手話を少しでも理解できる司書や職員が常に居ることが望ましい。コロナ感染対策のためマスクをはずせない現況においては、聴覚障害者に対する理解の広がり逆行している。【1件】	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障がい者差別解消法)」や読書バリアフリー法などの理念にのっとり、誰もが図書館を利用できるように、きめ細かく対応していきます。また手話のできる職員の養成にも取り組めます。

4	<p>サービス方針4「利用促進」について、図書館ホームページなどのWebサービスの更なる充実が重要と考える。例えば、他市でも導入事例があるように、マイページで自分の貸出（読書）履歴一覧を確認できるようにしてほしい。また、他市では、読書通帳というサービスを提供している。特に児童が本を読む楽しみ、どの本をいつ読んだという記録がたまることによって児童の利用促進にも寄与すると考える。【1件】</p>	<p>貸出（読書）履歴については、資料のデータを保持できるWebサービスにあるマイライブラリ内の「本棚」機能の活用をご検討ください。また、児童に対しては、読んだ本のタイトルや感想を記録できる読書貯金「すいぽんつうちょう」を作成し、配布しています。</p>
5	<p>資料費、図書費を増額してください。吹田市の図書費は北摂7市の中でも低い。これでは十分に市民の要望に応えられるとは思えません。【3件】</p>	<p>市民の要望に応えられるよう、適切な資料費、図書費の確保に努めます。</p>
6	<p>提唱したいのは、絵本は暮らしの中の総合芸術であるということ。子どもにただ絵本を読めばいいというものではない。子どもたちへ、絵本や本を手渡す方法を考えてください。図書館の職員は、どのようにして、子どもたちに絵本を手渡すか、読むのか。そのときのおとなはどうあるべきか、も考えてください。【1件】</p>	<p>子供の周りの大人に対して、子供が絵本を読むことへの理解を深める講座や、子供と一緒に絵本を読むことの楽しさを実感してもらえよう行事の開催に、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>また、司書の専門的知識と経験の蓄積を継続し、図書館サービスの改善・発展と子供の読書活動推進に努めてまいります。</p>

提出された意見の全文は、次のページからご覧ください。

(仮称) 吹田市立図書館サービス基本計画の素案に対する意見

1	<ul style="list-style-type: none"><li>・自習室のある図書館を増やして欲しい。</li><li>・なぜ自習してはいけないのか理由を明確にしてほしい。</li></ul>
2	現行では18時頃に吹田市立図書館の多くは閉まる。むろん曜日に限ってはより遅い場合もあるが、高齢者は体調の変化が激しいので出来るだけ多くの曜日において夜も開館することを期待される。豊中市立図書館においては20時まで開館することを標準的に行なっている。是非住民、とりわけ高齢者へのサービス向上を「国民の文化的生活」の観点から求めたい。以上
3	手話を少しでも理解できる司書や職員が常に居ることが望ましい。コロナ感染対策のためマスクをはずせない現況においては、聴覚障害者に対する理解の広がり逆行している。むしろ、聴覚障害者を図書館から遠ざけている。※聴覚障害者は口の形を見て会話が成り立つことがある。筆談しながらも口の形を見ることも多いので、注意深く対応してほしい。
4	1 サービス方針4「利用促進」について、図書館ホームページなどのWebサービスの更なる充実が重要と考える。例えば、現在、マイページにログインして自分の貸出（読書）履歴一覧を確認できない。吹田市のWebサービスでは現在この機能は無い。しかし、西宮市では読書履歴一覧を確認できる機能が有る。大変便利でとても有用でよく利用している。また、八尾市では、読書通帳というサービスを提供している。これも図書館で借りたもの情報を記録し、借りた人が確認できるようにするサービスである。このサービスはNHKでも紹介されていた。特に児童が本を読む楽しみ、どの本をいつ読んだという記録がたまることによって児童の利用促進にも寄与すると考える。
5	吹田の図書館の資料費、図書費を増額して下さい。新しい本、子どもの本、もっと揃えてください。北摂の中でもとても低いです。池田市より低いのは問題です。
6	吹田市立図書館の図書費についての意見です。吹田市の図書費は、北摂7市の中でも一番低いです（2021年度）153.7円です（一人当たりです）これでは十分に市民の要望に応えられないとは思えません。紙の本は大事です。図書費の増額は絶対必要です。喫緊の問題です。
7	(次のページ)

## 「(仮称)吹田市立図書館サービス基本計画の素案」に対する意見提出用紙

住民です。

### 【意見】

いつも思うのですが、パブリックコメントの内容を、多くの市民が理解しやすいように、もっと端的に書いていただきたい。パソコンのスクリーン上で読むのは大変なのでコピーしましたが、90 ページもありました。これだけの紙とインクの用意も大変でした。もちろん、読むのも大変です。市民が（少なくとも、関心のある市民が）読みたいと思える書き方をしていただきたいです。私は図書館に関心がある方ですが、大変でした。お願いします。こういう面での改革をお願いします。

図書館サービス基本計画について、今回は、乳幼児期の子どもたちへのサービスに絞ります。

### 第2章 図書館を取り巻く状況 (pp. 6-9)

ここでは、

「幼児期における読み聞かせの習慣」(p. 9)

「12 歳から 18 歳までのヤングアダルト世代の「活字離れ」「不読率」」(p. 9)

「誰ひとり取り残されないデジタル社会の実現に向けてとして、公民館・図書館などの社会教育施設に期待される役割」(p. 9)

などが書かれています。

こうした文書からすると、家庭における「読み聞かせ」は普及しており、一方、中高生の不読率は進んでいる（解消されつつあるというような文章もありますが、現実はそのようには読み取れませんが、現実には、家庭における読み聞かせも減少している傾向にあるような気がします。

現在、3つの大学で絵本についての授業を行っていますが、学生たち（18歳～21歳くらい）があげる記憶に残っている絵本のタイトルは、いわゆる「心をゆたかに育てる」という絵本より、一過性の笑いをとるもの、直接的な文章で訴えるものが多いです。「読み聞かせの質」が低下してきています。もう一つの心配は、乳幼児期へのデジタル産業の参入です。現在、数種類のAIを搭載した「読み聞かせ機器」が発売されており、優れた絵本よりも「オリジナル絵本」と称して、かわいい・楽しい絵本を売りにしており、親にはその方がアppealしています。乳幼児にAI機器を与えておけば、子どもは読み聞かせをしてもらえ、子どもは早い時期にAIに慣れるし、親はその間、他のことができる、便利な役に立つものと考えられています。

こうした事情から、「読み聞かせ」をしているからいいと思ひ込むこと、データ的に出た数字から過信するのは違っているかもしれないと考えるようになりました。

もし、本当にいい読み聞かせがされているなら、想像力・思考力・物語力が育っているはずですから、読書力も育っているはずであり、もし、中高生時代に読書から遠ざかろうとそれほどの心配はいりません。しかし、学生たちのレポートを見る限り、そうした力が育っていないようには思われなからです。

私が、現在、非常に心配しているのは、乳幼児期の危機的状況です。発達心理学者の岡本夏木先生が名著『幼児期』（岩波新書 2005年）の中で、「幼児期の空洞化」を心配され

ていましたが、その頃からスマホの普及、「デジタル」という言葉を良い物と捉える社会の風潮も進んでおり、乳幼児期は、読み聞かせだけと限らず、まともに育てられてはいない状況がどんどん進んでいます。岡本夏木先生は、「幼児期の空洞化」のままでおとなになる人、社会の一員になる人、親になる人が増えていることが、現代の社会問題を引き起こす要因になっていると書かれています。この状況は加速度的に進行しています。

人としての出発点である乳幼児期は、AIで育まれるものではなく、人と人の関係性の中で育まれます。人と誠実に向かい合い、人を信頼し、よりよい社会作りに参加しようと思ふ人の形成（私は、〈ひとなる〉という言葉を使います）は、乳幼児期に育まれます。私は、青山台文庫（来年50周年）で「だっこでえほんの会」を22年してきましたが、0歳、1歳、2歳（この過程で、3歳になる）の子どもたちと絵本を読んできてわかったことがありました。誕生して間もない頃の子どもたちの成長は素晴らしいです。ご関心がありましたら、拙著『メルロ＝ポンティと〈子どもと絵本〉の現象学—子どもたちと絵本を読むということ』（風間書房 2018年）をお読みいただけたらと思います。阪大の大学院で書いた博士論文で、哲学と子どもと絵本について書いた世界で最初の（多分唯一の）本です。乳幼児期と絵本の関係について書いています。最初の3年半の重要性を書いています。

すると、家庭でも読み聞かせをしているし、吹田市では、図書館で、図書館員が行っている活動もあるし、ボランティアが行っている活動もある。また、全国的にみれば、絵本ボランティアが、読み聞かせを行っているし、乳幼児期の子どもたちには十分過ぎるほどの対応がされていると一般的には思われています。もちろん、図書館職員が対応されている場合には、きちんとした絵本を選んでおられると思います。ボランティアさんの場合でも、良い活動をされている場合もあります。しかし、たいていの場合、不特定多数を対象とするために、面白がらせようという気持ちが大きく働くために、子どもたちが生きていく上で「種」になるような絵本を心の中に蒔いてもらっていることに欠ける場合もあることを、仕事柄見てきました。絵本なら、どれでもいい絵本だと思い込んでいる人が多いです。そんなことは無いです。中には優れた絵本が出版されますが、多くは、売れるだろうという想定のもとに出版されています。

活動で絵本読みがされる場合には、もう一つ問題があって、上記と共通の問題を含むのですが、子どもたちに絵本を読むことがイベント化していることです。

長くなりました。提唱したいのは、絵本は暮らしの中の総合芸術であるということ。優れた絵本の場合、その絵本は、読んでくださった人の思い出とともに、その子（人）の中に留まり、その人の一生を支えます。おとな（親）は、子どもと一生をともに生きるわけにはいきません。しかし、丁寧に選んだ絵本（作者が誠実な思いを込めて制作した絵本）を、おとな（親・保護者・保育者）が心を込めて丁寧に読めば（声にだして読むことは、絵本に息を与えることであり、命を吹き込むことです）、子どもの心に残り、その子（人）の一生に伴走します。

私は読み聞かせという言葉は使いません。「おとなが子どもと絵本を読む」、という言い方をします。子ども〈に〉読むのではなく、子ども〈と〉読んでほしいのです。そうやって読んでもらった絵本は、読んでもらった子どもにとって〈たからもの〉になるばかりではなく、声に出して読んだおとなにとっても〈たからもの〉になります。

もう1度、書きます。子どもにただ絵本を読めばいい、と言うことではないのだということです。どの絵本でもいいわけではない。機械が読めばいいわけでもない。どんな読み方でもいいわけでもない（上手に、という意味ではありません）。絵本はイベントのために

あるわけではない（時には、大型絵本が使われることもあるでしょうが、それは、イベント用です。）

図書館の職員は、絵本を貸し出すだけの仕事をしていればいいわけではないのです。子どもとは何か。子どもは未来の社会を気付く人間です。絵本もどんな絵本でもいいわけではないのです。では、どのようにして、子どもたちに絵本を手渡すのか、読むのか。そのときのおとなはどうあるべきか、も考えてください。「読み聞かせ」という用語で片付けないでいただきたい。「デジタル」を当然受け入れるべき物、推し進めるべき方向と、国の方向にだけ寄り添って進めないでいただきたい。人間は、「自然」の一部であることを忘れないでいただきたい、です。人間の一生には、悲しいことつらいことの方が多いです。

48 ページに「児童サービス」がありますが、こうした行事もイベント化しています。イベントも悪いわけではありませんが、親になる人たち、親になった人たちへの、絵本読みの楽しさを伝える講座（数回）もして下さったらどうでしょうか。また、絵本ボランティア養成講座をされるときにも、上記のようなことを伝えていただきたいです。

ということで、子どもたちへ、絵本や本を手渡す方法を考えてください。幸い、オープンしたばかりの北千里図書館は、図書館、公民館、児童館から成り立っています。有効に融合させた方法をお考えいただきたいです。

そのためには、図書費の増額もお願いしたいです。19 ページの【表 3】北摂 7 氏の市民ひとりあたりの資料費と図書館費の比較、を見ると、図書費の割合が吹田市は低いです。数字には表れない点もありますので、他市に比べて、吹田市が極度に低いわけではありませんが、吹田市の図書費を増額して下さったら、一層良くなります。吹田市が良くなります。

おねがいばかり書きました。他市から、北千里図書館を見学したいという人たちの声が出て来ています。うれしいことです。そのときに、ただ、建物の明るさ、使い勝手の良さばかりではなく、図書館の司書配置、カウンター業務、単に貸し出しだけではない活動も紹介できたら、ありがたいです。

2022 年 12 月 14 日